

CILAS/UCSD : Center for Iberian and
Latin American Studies at University of California, San Diego幡谷 則子
(地域研究部)

カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)は比較的若い大学であるが、同大学付属のイベリア・ラテンアメリカ研究センター(CILAS)は1976年に設立されすでに確実な実績をあげ、その地位を不動のものにしている。同研究所には専属のスタッフの他、全学から総勢75人もの教授陣が関わっている。学生向けのラテンアメリカ関係の講座の運営のほか、専門家をつのって実施されるセミナー、協同研究、特別講演などの企画もすべてこのCILASが事務局となっている。現在の所長はアジア経済研究所の元客員研究員でもある、政治学者のP・スミス教授である。

CILAS自体はUCSDでのイベリア・ラテンアメリカ研究の母体であると同時に、オーガナイザーとしての機能を果たす機関であり、具体的な研究プロジェクトはUCSD内およびサンディエゴ域内の各研究機関との連携において実施されている。その主なものは、米墨研究センター(Center for U.S.-Mexican Studies: CMS)と米州研究所(Institute of the Americas: IOA)である。ちなみに、CILAS, CMS, IOAの3機関の事務局は同じ建物Institute of the Americas Building内にある。CMSは1980年に現在の所長W・コーネリウスによって設立された。同教授は、米国におけるメキシコ政治・社会研究の第一人者のひとりである。毎年約20人もの客員研究員を擁し、研究・出版活動ともに充実しており、米墨関係に関するセミナーも随時開催されている。一方、IOAの方は、米国・ラテンアメリカ間の相互理解と市民および指導者のレベルでの関係の改善をめざして設立された民間機関である。年間通じて、ワークショップ、講演会、その他現行政策に関する分析など、

啓蒙的活動を中心に手がけている。

UCSDの中央図書館におけるイベリアおよびラテンアメリカ地域に関する蔵書は、およそ18万冊、地図2万点を数えるが、CMSのリーディング・ルームには別途米墨関係を中心に単行書、メキシコその他の研究機関誌、新聞切り抜きファイルなどが充実している。

もちろん、CILAS独自の研究プロジェクトも推進されている。1990-91年度の主たるものは、次の4プロジェクトである。(1)総合的かつ比較的なラテンアメリカ研究、このうちコアとなるテーマは、「東欧とラテンアメリカにおける民主化」と「太平洋沿岸地域における経済発展とラテンアメリカの関係」の二つである。(2)米州における麻薬政策、(3)カリブ海諸国——その継続と変容——、(4)現代スペイン。いずれも公的・私的機関からの資金援助を受けて運営されている。

ラテンアメリカ研究コースとしては、年間約180のコースがのべ約1万2000人の学生を対象に開講されている。大学院レベルでは、まず学際的地域研究としての2年間のラテンアメリカ研究修士過程があり、博士過程では、各専門分野においてラテンアメリカ地域に特化するかたちで学位が授与される仕組みになっている。大学院生への学資援助などについてもCILASが窓口になっている。

連絡先: CILAS

Institute of the Americas Building
UCSD, Mail Code D-010
University of California, San Diego
La Jolla, CA 92093, U.S.A.
Tel: 619/534-6050, FAX: 619/534-6447